

栗原市地震防災マップ

地域の危険度マップ 栗駒地区(1/2)

想定する4つの地震のうち最大の震度の場合



○ この地域の危険度マップは、地域が揺れやすさマップ(想定する4つの地震のうち最大の震度)において示された強さ(震度)の揺れに合った場合に、地盤の変状の影響を含めてどの程度の建物被害(全壊及び半壊相当)が生じるかを100メートルメッシュ毎に評価し、相対的に表示したものです。

○ 防災上の可能性として、地域で発生する可能性のある最大の被害状況の目安を示したものであり、住民の皆様方の防災活動に役立てていただくためのものです。全域が同時にこのような被害となることを表現しているものではありません。

栗駒地区

金成地区

鶯沢地区

一迫地区

築館地区

地域の危険度マップとは

■ 地域の危険度マップ

地域の危険度マップは、地震による建築物(木造)被害をその被害の程度に応じて3段階別(最大)として地域ごとに示したものです。具体的には「揺れやすさマップ」で示した震度の揺れに合った場合に、地盤の変状(30%の被害を含めて、全壊及び半壊相当の被害を受けやすいかを被害の程度別)を示す「危険度」を示しています。

○ 地震による死亡・ケガの要因は何？

高層ビル等の被害の主な原因は地震直後の倒壊、建物による圧死などが挙げられます。

○ 皆さんの生命・財産を守るためには、住宅・建築物の耐震化が最も重要です。

建物の耐震化が重要です。

■ 木造住宅の耐震診断

木造住宅の耐震性は、主に3つのチェックポイントがあるとされています。

- 建てられてから、かなりの年月が経っているか(特に昭和56年以前に建てられたものか)。
- 住宅が過去に大きな災害(地震や水害など)を経験したことがあるか。
- 住宅の構造、形、偏って大きな窓がたくさんあるなど、耐震に関わる基本的な住宅の性質に問題がないか。

耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。目立った症状がなくても、耐震診断を受けることが重要です。次のような項目に心当たりがある住宅は、特に要注意です。

- トアあるいは窓を開けたとき、柱と建具との間に著しい隙長の三角形の隙間がある。
- トアあるいは窓の建付けが悪く、建具の間隙が変形のために思うように開かない。
- 窓の敷居が著しく水平を欠いている。
- 建物の壁面が傾斜しているのが、肉眼でもわかる。
- 床面の傾斜が凄まって感じられる。
- シロアリの成虫(4枚羽根のついたしるし)が浴室から飛び出す。
- 屋根の棟あるいは軒先が歪打っている。
- モルタル塗壁に長い斜めのひび割れが入っている。
- 流しや浴室の土台の一部が老朽化している(腐っているなど)。

家具の地震対策も重要です。

■ 家具の対策

住宅の全壊を免れても、ガラスの飛散やタンス等の大型家具の転倒、テレビや電子レンジ等の家電製品が飛んでくるといった、日常生活からは想像できない事態によって、思わぬ方が亡くなり、避難が遅れて火災に巻き込まれることがあります。新潟県中越地震においても被害者の約5割はガラスの飛散や家具類の転倒・落下によるケガによるものであります。

家具や家電製品の地震対策としては、次のようなものが考えられます。

- ◆ 固定器具を用いて家具や家電製品を固定する。
- ◆ 重厚な収納物が積載するごとの立て直し、扉の閉鎖など家具を揺らさない。
- ◆ 転倒や倒壊を防止する場所の近くに、家具や家電製品をなるべく置かない。
- ◆ 重い・長い・大きな収納物(冷蔵庫・洗濯機)は、壁掛けや固定器具で固定する。
- ◆ 大きな家具は揺れやすい傾斜や壁の間に固定する。
- ◆ 電器の中には、下に重いもの、上に軽いものを重ねる。
- ◆ 通り付けの廊下やワークデスク、キッチン・洗面室等の住宅のリフォームを行う。
- ◆ ガラス扉には飛散防止フィルムを貼る。

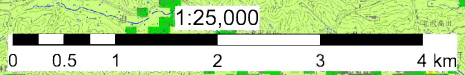
凡例

木造建築物の全半壊率

- 0~3%
- 3~5%
- 5~7%
- 7~10%
- 10~20%
- 20%~30%
- 30%以上

※このマップにおいて、市の境界部等で、計算上、色の変わっていない箇所があります。

お問い合わせ先
 栗原市 建設部 建築住宅課
 TEL 0228-22-1153 FAX 0228-22-0313



この地図は、国土地理院長の承認を得て、阿房発行の数値地図5000(地図画像)及び数値地図2500(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平19総研、第990号)

